

市立高校の魅力向上に向けたプランの策定

プランの方向性・視点

神戸市立高校が、目指すべき方向性

1. AI・DXに代替されない能力・個性の伸長
2. グローカル・イノベーション人材の育成
3. 心地よく学び、コミュニケーションができる環境の整備



プランを実現するための4つの視点

- ① 学科の再編や学習内容の充実
- ② 教員の能力・資質向上
- ③ 生徒数の減少に対応した適切規模での学校運営
- ④ 施設・設備のリニューアル

具体的な取り組み

1. 学科の再編・学習内容の充実

- (1) 理数、DX教育の充実
- (2) 普通科改革
- (3) キャリア教育の強化

等

2. 教員的能力・資質向上

- (1) 外部人材の活用、探究学習高度化研修
- (2) 小中高の連続性や、生徒に寄り添った親切的関わりの充実

等

3. 生徒数の減少に対応した適切規模での学校運営

- (1) 学級数の変動、教員配置の最適化

等

4. 施設・設備のリニューアル

(1) 学習環境・設備の高度化

- ・ 探究ルーム等の設置
 - ・ 専門分野の最先端機器導入
- 等

(2) 学校空間の安全性確保・快適性向上

- ・ 空調の整備
 - ・ 人が集う交流空間の創出
 - ・ トイレ空間の美装化
 - ・ グラウンドの人工芝整備
- 等



探究ルーム



ラーニングコモンズ



交流空間（オープンスペース）



人工芝

【参考】関係者へのヒアリング結果

ヒアリング結果（学識者①）

◆神戸市立高校改革の方向性

- ・基礎学力と探究を両立させ、生徒のケア（受容、対話、支援）と挑戦を支えながら、小中高大・産官学連携と学校間ネットワークを活用した「神戸ならではの学び」を実現すること。
- ・また、AI時代に対応した学びの刷新と、教員・生徒双方が成長できる持続可能な教育環境の構築が重要な課題。

◆育成したい生徒像の明確化

- ・学びの中身の設計を改革の出発点とすべきであり、「どのような人材を育てるのか」を明確にする必要がある。それを市立高校全体としての共通ビジョンとすべき。

◆学びの提案

- ・神戸市立高校の多様性を活かした「**神戸ならではの探究**」や、**高校間で授業や単位を共有**する「**ネットワーク型教育**」
- ・地域を学びのフィールドとして活用し、**大学体験、企業連携、地域課題解決型学習を通じて社会との接点を増やす**。
- ・AI時代に対応した学びへの転換、**AIリテラシーやデータサイエンス教育**の充実、論理的思考力が重要。

ヒアリング結果（学識者②）

◆探究学習の質的向上と、基礎学習との両立

- ・探究とは問いを深め続けるプロセスそのものであり、失敗や試行錯誤も学びの成果。高度な研究よりも、自ら考え解決する姿勢や論理性を育てることが重要。
- ・学習過程を記録するポートフォリオの活用が生徒の評価につながる。
- ・教科教育を通じて思考法や学問的な見方を身に付けることが探究の土台として必要であり、基礎学力不足は大学進学「後」の課題になっているとも指摘。

◆学びを支える環境整備

- ・生徒の作品や活動成果が可視化される校内空間づくり、協働空間と集中空間を併せ持つ柔軟な学習環境が必要。

◆生徒支援と教員支援

- ・高校教育には生徒が安心できる環境と適切な困難を伴う「修行性」の両立が必要。面倒見の良さを個人依存ではなく組織的な仕組みとして共有することが重要。また、生徒が失敗しながら成長できる環境づくりが求められる。
- ・改革を持続させるためには教員支援が不可欠。探究指導に関する教員研修や実践共有の機会提供、専門スタッフ導入やICT活用による教職員負担軽減の提案。

ヒアリング結果（企業①）

◆企業が求める人材とは

- ・「何を学んだか」よりも「何を実現しようとしているか」が重要であり、**自立性や行動力**を持つ人材がグローバル社会で活躍できる。
- ・（機械を）使える人材ではなく、（機械やAIを活用して）**価値を生み出せる**人材

◆これからの市立高校について

- ・高校教育は進学実績が重視される傾向にあるが、大学受験は将来の選択肢を広げる手段であり、本来の教育目的は自ら考え行動し、社会で活躍できる人材を育てることにある。進学実績と学校独自の学びを両立させる必要がある。
- ・**全ての学校がフルパッケージを持つ必要はなく、市立高校それぞれの特色を生かしながら連携する「異分野融合型」の教育モデルが望ましい。**

◆高校在学中に経験してほしいこと

- ・**社会との接点**を持ち、多様な職業や**価値観に触れる**こと
- ・部活動や地域活動などの**挑戦経験**を積むこと
- ・**文系・理系を問わず、データサイエンスやAI活用の基礎的な視点**は今後必須

ヒアリング結果（企業②）

◆高校の授業（探究等）に期待されること

- ・「なぜそうなるのか」「社会にどのような価値を生むのか」を考え続けることが重要。
- ・神戸の企業、大学、商店街、港湾、観光資源などを活用した実践的な探究活動を通じて、生徒が地域課題や社会課題に挑戦する仕組みづくり。

◆教員の役割

- ・教員は知識を教えるだけでなく、生徒が自ら問いを立て、挑戦できる環境を整える伴走者になる必要がある。
- ・探究等の経験の少ない教員自身も学び続ける姿勢が求められる。

ヒアリング結果（保護者）

保護者アンケートやインタビューを行ったところ、教育面では、子供の将来に関連する**キャリア教育**や**職場体験**の充実、**コミュニケーション**や**マナー**を学習して欲しいとする意見が多かった。施設面では、**トイレ**をきれいにしてほしいとする意見が突出して多かった。

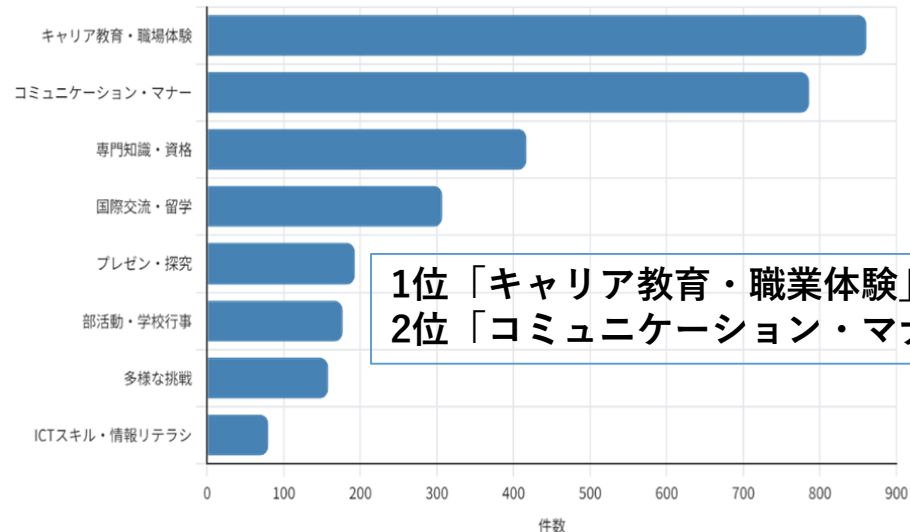
定時制高校に設定して欲しい時間としては、**8割以上が朝・昼の時間帯**を希望していることが分かった。



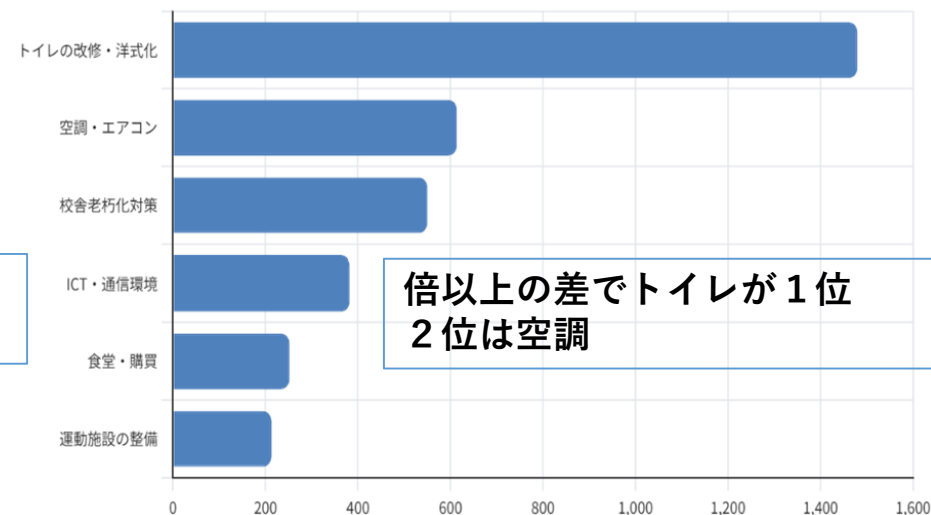
オープンハイスクール
保護者インタビュー

■保護者アンケート結果（小1～中3対象世帯約60,000世帯、回答数9,324世帯）

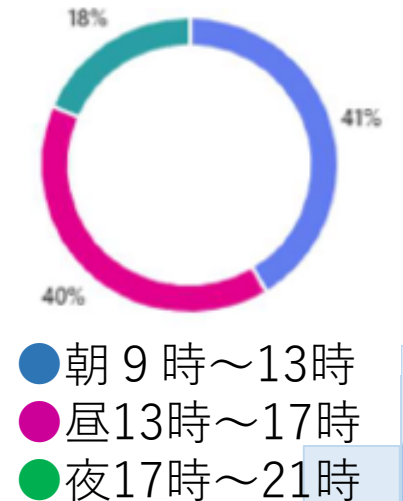
・高校時代に学習してほしいこと



・優先して整備を望むもの



・定時制に望む時間設定



【参考】 2026年第1回総合教育会議（5月1日開催）

議論内容

1. 市立高校の重要な役割

- ・ 公立高校には、市民に対して幅広い高校教育の機会を提供する重要な役割がある。
- ・ 神戸市立高校は、その役割を引き続きしっかり果たしていく必要がある。
- ・ 県立高校との差別化を無理に図る必要はないが、市立高校ならではの特色を発揮することが求められる。

2. 市立高校の特色と目指す方向性

- ・ 市立高校は、県立高校よりも地域に密着した存在である。
- ・ グローバルな視点を持ちながら、地域・企業との連携を重視する教育を推進する。
- ・ 神戸市立小学校・中学校から市立高校へとつながる教育の連続性を大切にする。
- ・ 子どもたちが神戸市民として自立し、地域や社会で活躍できる人材となるよう育成する。

3. 今後検討すべき課題

- ・ 入試制度のあり方を含めた学校・学科のあり方について議論を進める。
- ・ 教育環境の充実に向けた施設整備を推進する。機能面だけでなく、デザイン性にも配慮した施設整備が必要である。